

株主・投資家の 皆さまへ

第25期 中間事業報告書
(平成14年9月期)



PROTO
(株) プロトコーポレーション
(証券コード:4298)



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに、当社第25期中間事業報告書(平成14年4月1日～平成14年9月30日まで)をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は、平成14年9月12日をもちまして、ジャスダック上場1周年を迎えました。これも、皆様のご支援の賜物と、あらためて厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の経済状況につきましては、個人消費や雇用情勢に回復の兆しが見えない状況であり、更に株価の下落や世界経済の減速といった懸念材料も多く、依然として先行き不透明な状況にあります。このような経営環境の下、当社は、真に社会から必要とされる企業を目指し、消費者が欲する「情報」に「知恵」という付加価値を加え、最適なメディア(媒体)を通じて提供する事により、消費者・クライアント満足度の向上と業界の活性化に寄与してまいりました。

また、これまでは経営効率の観点から自動車関連情報に特化して事業展開を図ってまいりましたが、今後、更なる成長・発展を遂げるため、今期より、生活関連情報において拡大基調にあるマーケットに参入し、新たな収益の柱に育てていきたいと考えております。更に、当社のような情報サービス産業においては、人材の能力が大きく事業展開に影響する事から、優秀な人材の確保・育成にも努めていきたいと考えております。

今後につきましては、企業価値の最大化に努めると共に、業績の向上に全力を注ぐ所存でございますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜ります様、心からお願い申し上げます。

平成14年11月

代表取締役社長 横山 博一

経営理念

物売る事より知恵、情報を通じて 人・企業と効果的な結び付きをし社会に貢献する

当社の基本的な考え方は、人・企業とは世の中にあつて、また、その業界にあつて真に必要なとされる事に価値観を持つ、という事です。他人、他企業と同じ事をしたくない。世の中に人や物が溢れている中から、本当に必要とされるためには「情報」と「知力」が絶対の武器であり、多少のリスクがあつても旺盛なチャレンジ精神とスピーディーな行動力で次代を切り開き、大きく成長していくことに喜びを感じることができる価値観を共有することが必要であると考えております。このため、常に「独創性のある事業」を行う事を目指しており、その結果として「魅力ある企業」でありたいと考えております。

また、当社では、将来にわたり、継続的かつ安定的に成長・発展していくために、10年単位で企業目標を設定しております。2000年から2010年までの企業目標は、ワクワク・ドキドキ楽しい会社「ジョイフルカンパニー」であります。消費者の趣味嗜好が多様化し、常に新しい刺激が求められる今日において、まず、企業そして社員自身が「ワクワク・ドキドキ」するような斬新な発想の創造に努め、次々と新しい事に挑戦し続ける事によって、株主の皆様にも一緒に「ワクワク・ドキドキ」して頂ける「楽しい会社」でありたいと考えております。

将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おきください。

当中間期の営業概況

売上高について

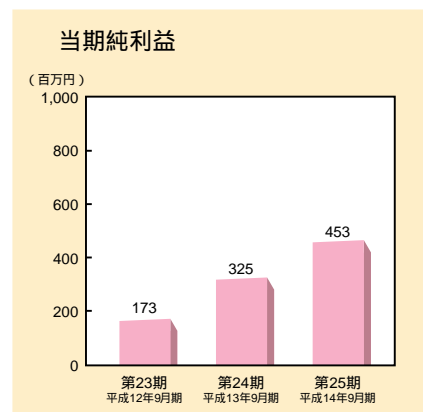
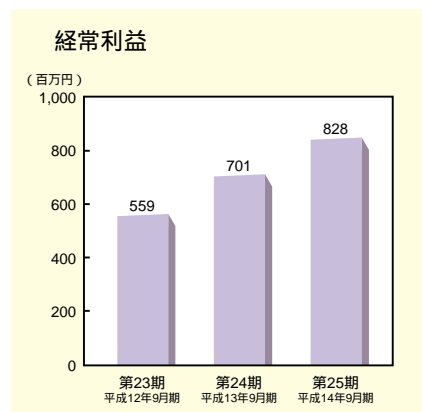
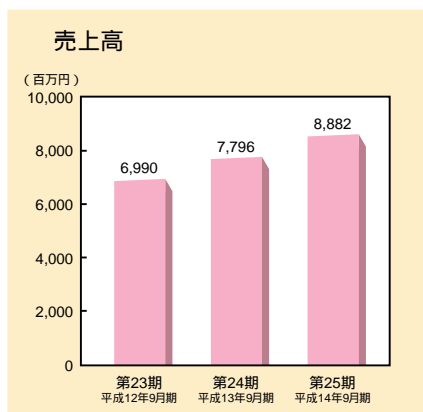
当中間期における我が国経済は、雇用情勢および所得環境の悪化により、個人消費は伸び悩み、依然として環境は厳しさを増しております。こうした経済環境の中、当社は更なる事業領域の拡大を図り、読者・ユーザーならびにクライアントから圧倒的に支持される媒体の確立を図るため、地域・業界NO.1を目指して情報量の確保を行うと共に、コンテンツの拡充およびデータベースの構築を推し進めてまいりました。この結果、自動車関連情報および生活関連情報ともに前年同期と比較して増収となり、**全社売上高は8,882百万円(前期比114%)**となりました。

利益について

売上原価率が新媒体創刊等により上昇するものの、全社的にコスト低減を図り、販売費及び一般管理費の圧縮に努めました結果、**経常利益は828百万円(前期比118%)**、**当期利益は453百万円(前期比140%)**と前年同期と比較して増益となりました。

ちなみに、新媒体創刊時には、より多くのクライアントを獲得するために、創刊後数ヶ月間は通常の広告単価より低い特別価格にて受注すると共に、媒体認知度を高めるために発行部数を増加するため、売上原価率が上昇します。

財務ハイライト(連結)



連結セグメント別売上高の概況

自動車関連情報

クルマ情報誌『GOO』については、読者・ユーザーならびにクライアントから圧倒的に支持される媒体の確立を図るため、地域・業界NO.1を目指して、全国10エリアで事業活動を展開しています。また、平成14年7月には、輸入車情報誌『GooWorld北海道・東北版』を創刊しました。これにより『GooWorld』は、全国5エリアをカバーする事となりました。

また、前期中に創刊したバイク情報誌『GooBike』、クルマパーツ情報誌『GooParts』などの売上が通期で寄与した事などにより、売上高は8,609百万円(前期比113%)となりました。



▲輸入車情報誌『Goo World』

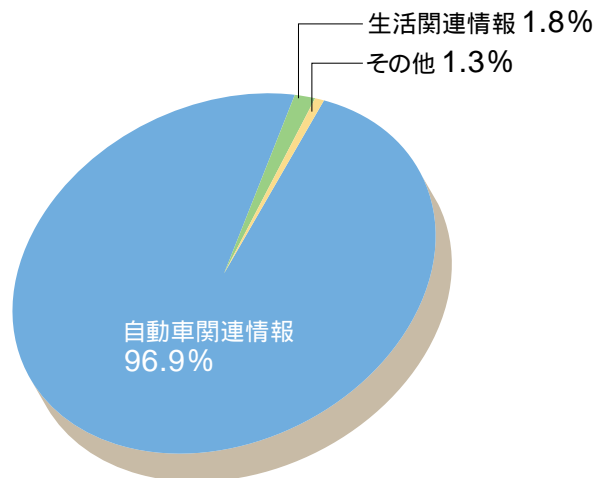
生活関連情報

平成14年8月に習い事・資格取得等に関する情報を1冊にまとめたカルチャー情報誌『Vee School東海版』を創刊し、新たな情報分野への参入を果たしました。また、従来のゴルフをはじめとするレジャー情報についても、情報コンテンツの拡充を図った結果、売上高は162百万円(前期比162%)となりました。

セグメント別売上高推移

(単位：百万円)

	平成13年9月期	平成14年9月期	
		前期比	
自動車関連情報	7,615	8,609	113%
生活関連情報	99	162	162%
不動産・その他	81	110	136%
合計	7,796	8,882	114%



平成14年9月期 連結売上高構成比

自動車関連情報について

自動車関連情報につきましては、個人向けと法人向けに、情報サービスの提供を行っております。

1 個人向けの情報提供について

新車、中古車、バイク、クルマパーツなどの小売情報をクライアントから収集して整理・分類し、情報誌・インターネットなどを利用して提供しています。中でも、当社の主力媒体であるクルマ情報誌『GOO』は、情報誌に求められる「情報量」「スピード」「正確性」を全て満たしたクオリティの高さと、テレビCM等のキャッチコピー『カーと言えばGOO』により、20代から30代以上の幅広い年齢層に認知される情報誌になりました。更に、『GOO』に掲載された情報は、クルマ情報サイト『Goo-net』、iモードオフィシャルサイト『クルマ情報・GOO!!』においても提供を行うなど、様々なメディアを活用して情報を発信しています。

また、『GOO』のブランド力とノウハウを活用して、輸入車情報誌『GooWorld』バイク情報誌『GooBike』クルマパーツ情報誌『GooParts』を創刊すると共に、『GOO』と同様、掲載された情報をインターネットなどでも提供しています。

2 法人向けの情報提供について

全国のオートオークション会場で、中古車がいくらで売買されているかという中古車落札価格情報を収集して、『週刊オークション情報』といったデータブックにて提供しています。また、インターネットを利用した中古車データ検索システム『データライン』によっても、中古車落札価格情報や小売情報などを提供しています。

また、これらの中古車流通情報を元に開発された『中古車基準価格ガイド ブルーブック』は、中古車の下取り等で活用されています。こうした情報サービスの提供は、中古車販売店にとってなくてはならないものとなっています。

北海道から九州の
全国10エリアで発刊



▲クルマ情報誌『GOO』



▲『クルマ情報・GOO!!』



▲クルマ情報サイト『Goo-net』
(<http://goo-net.com/>)



▲中古車データ検索システム『データライン』



▲『週刊オークション情報』



▲『オークション情報 輸入車版』

生活関連情報について

Vee School東海版の創刊

「Vee School東海版」が創刊されました!

当社は今年8月、カルチャー情報誌『Vee School(ヴィー・スクール)東海版』を創刊しました。

『Vee School』は、今後も成長が期待される語学・パソコン・資格取得・通信教育等の習い事・レッスンに関する情報をまとめた情報誌です。スクールのカテゴリ・沿線別の情報に加え、エリア別の特集などを掲載し、書店・コンビニエンスストアで発売中です。また、掲載された情報は、レッスン情報サイト『Vee School.com』においても情報サービスの提供を行っています。

「Vee」とはどういう意味?

「Vee」とは、フランス語の「生活」という意味を持つ「Vie(ヴィー)」、「i」を「everybody」の「e」に変え、「(私の生活)」から「everybody(みんなの生活)」へという意味を込めて命名しました。

テレビCMを大々的に放映!

創刊にあたり、短期間に媒体の認知度を高めるため、テレビCMの投入等、徹底したプロモーション活動を展開しました。イメージキャラクターには、テレビ、ラジオなどで幅広く活躍されているタレント・はなさんを起用しました。彼女は、英語・フランス語・中国語を話し、趣味も多彩と、まさしく『Vee School』にぴったりのタレントさんであり、媒体の表紙にも1年間登場してもらう予定です。

「Vee School首都圏版・関西版」の創刊

『Vee School東海版』創刊で培ったノウハウを活かし、来春には首都圏版と関西版を創刊する予定としております。

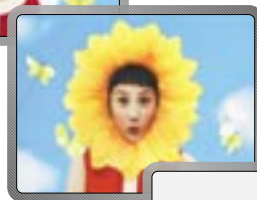
また、当初の計画では『Vee School』と同時に、旅行情報誌『Vee Travel』の創刊も予定していましたが、『Vee School首都圏版』の創刊に伴い、経営資源の効率的な運用を図るため、来期以降に延期することとしました。



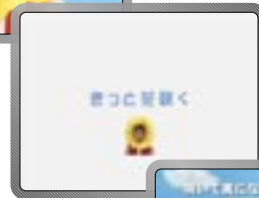
▲レッスン情報サイト
『Vee School.com』
(<http://www.veeschool.com/>)

「Vee School東海版」

発売エリア / 愛知・岐阜・三重
定 価 / 200円
発 売 日 / 毎月26日



◀はなさんを起用した
『Vee School』のテレビCM



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：千円)

科目		前中間連結会計期間 (平成13年9月30日現在)	当中間連結会計期間 (平成14年9月30日現在)
資産の部	流動資産	7,804,664	7,460,614
	固定資産	5,355,605	5,953,731
	資産合計	13,160,270	13,414,346
負債の部	流動負債	5,781,347	5,236,630
	固定負債	773,181	696,966
	負債合計	6,554,529	5,933,597
少数株主持分		33,988	56,920
資本の部	資本金	1,824,620	1,824,620
	資本剰余金	2,011,536	2,011,536
	利益剰余金	2,740,728	3,590,722
	その他有価証券評価差額金	-3,891	-1,095
	自己株式	-1,240	-1,955
	資本合計	6,571,752	7,423,828
負債・少数株主持分及び資本合計		13,160,270	13,414,346
流動負債の減少要因		取引条件の変更に伴い、仕入債務が大きく減少したためです。	
資本の部増加要因		前期利益処分によるものであります。	

中間連結損益計算書

(単位：千円)

科目		前中間連結会計期間 (平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)	当中間連結会計期間 (平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)
売上高		7,796,823	8,882,114
売上原価		3,814,462	4,508,395
売上総利益		3,982,361	4,373,718
販売費及び一般管理費		3,176,913	3,541,573
営業利益		805,448	832,144
営業外収益		17,784	31,273
営業外費用		121,696	35,176
経常利益		701,536	828,242
特別利益		282	464
特別損失		24,706	213
税金等調整前当期純利益		677,112	828,493
法人税、住民税及び事業税		381,364	384,768
法人税等調整額		-27,117	-16,672
少数株主損益		-2,258	6,521
当期純利益		325,124	453,876
売上高の増加要因		新規媒体の創刊および前期中に創刊した媒体の売上が通期で寄与した事によるものであります。	

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目		前中間連結会計期間 (平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)	当中間連結会計期間 (平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		251,484	188,307
投資活動によるキャッシュ・フロー		-218,718	-649,631
財務活動によるキャッシュ・フロー		1,708,295	142,044
現金及び現金同等物に係る換算差額		-397	-
現金及び現金同等物の増加額		1,740,664	-319,280
現金及び現金同等物の期首残高		3,141,683	4,842,966
現金及び現金同等物の中間(期末)残高		4,882,348	4,523,686
投資活動によるキャッシュ・フローの減少要因		主に営業拠点の新設に伴い、有形固定資産の取得による支出が増加したためであります。	
財務活動によるキャッシュ・フローの減少要因		前期には、株式公開時の公募増資を実施したためであります。	

中間単体財務諸表

中間単体貸借対照表

(単位：千円)

科目		前中間期 (平成13年9月30日現在)	当中間期 (平成14年9月30日現在)
資産の部	流動資産	6,685,709	6,001,824
	固定資産	5,262,486	5,846,294
	資産合計	11,948,196	11,848,119
負債の部	流動負債	5,008,475	4,206,847
	固定負債	349,517	271,653
	負債合計	5,357,993	4,478,501
資本の部	資本金	1,824,620	1,824,620
	資本剰余金	2,011,536	2,011,536
	利益剰余金	2,757,939	3,536,512
	その他有価証券評価差額金	-3,891	-1,095
	自己株式	-	-1,955
	資本合計	6,590,203	7,369,618
負債資本合計		11,948,196	11,848,119

流動負債の減少要因 取引条件の変更に伴い仕入債務が大きく減少したためです。

資本の部増加要因 前期利益処分によるものであります。

中間単体損益計算書

(単位：千円)

科目	前中間期 (平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)	当中間期 (平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)
売上高	7,727,643	8,766,512
売上原価	3,886,001	4,544,457
売上総利益	3,841,642	4,222,055
販売費及び一般管理費	3,116,314	3,459,120
営業利益	725,328	762,934
営業外収益	21,425	38,592
営業外費用	19,354	640
経常利益	727,398	800,886
特別利益	282	464
特別損失	23,756	213
税引前当期純利益	703,924	801,137
法人税、住民税及び事業税	381,010	380,500
法人税等調整額	-23,168	-14,514
当期純利益	346,082	435,151

売上高の増加要因 新規媒体の創刊および前期中に創刊した媒体の売上が通期で寄与した事によるものであります。

トピックス

配当金予想の修正について

当社は、今年の9月12日をもってジャスダック上場1周年を迎えました。これもひとえに日頃の株主の皆様方からのご支援の賜物であることから、配当予想を修正しました。

配当予想の修正

	1株当り配当金(予想)		
	中間	期末	年間
前回予想 (平成14年5月13日)	3円50銭	4円00銭	7円50銭
今回修正 (普通配当)	10円00銭	10円00銭	20円00銭
(上場1周年記念配当)	(5円00銭)	(5円00銭)	(10円00銭)
	(5円00銭)	(5円00銭)	(10円00銭)

株主優待制度の新設について

毎年9月30日および3月31日現在の株主および実質株主に対し、全国デパート共通商品券を年2回、以下の基準により進呈します。

商品券進呈基準

所有株式数	商品券金額
1,000株以上	2,000円分
3,000株以上	3,000円分
5,000株以上	5,000円分
10,000株以上	10,000円分

会社概要と役員構成

会社概要(平成14年9月30日現在)

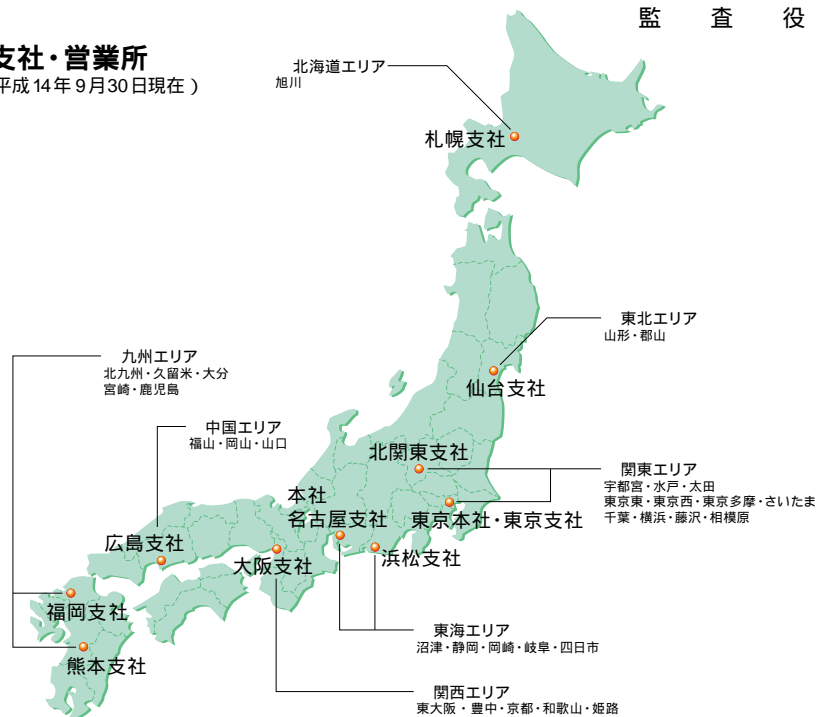
商号 株式会社 プロトコーポレーション
本社 〒460-0006 名古屋市中区葵一丁目23番14号
TEL(052)934-2000
東京本社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-22-2
TEL(03)3812-4500
設立年月 1979年6月1日
資本金 1,824,620千円
従業員数 529名
連結子会社 株式会社 プロトクリエイティブ
株式会社 プロトール
株式会社 エムベック

役員構成(平成14年9月30日現在)

代表取締役社長	横山 博一
取締役副社長	横山 順弘
取締役副社長	齊藤 実
専務取締役	入川 達三
常務取締役	横山 宗久
取締役	倉元 進
取締役	水川 直哉
取締役	神谷 健司
取締役	飯村 富士雄
取締役	山口 修司
常勤監査役	深澤 廣
監査役	佐藤 治興
監査役	新美 司
監査役	塩見 渉

支社・営業所

(平成14年9月30日現在)

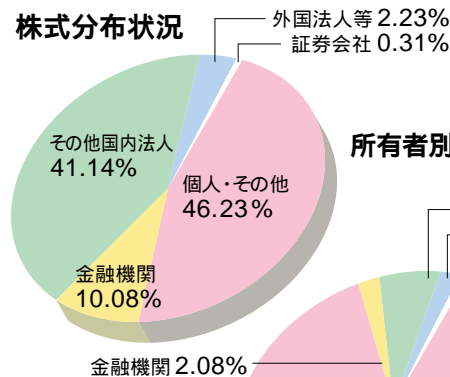


株式の状況 (平成14年9月30日)

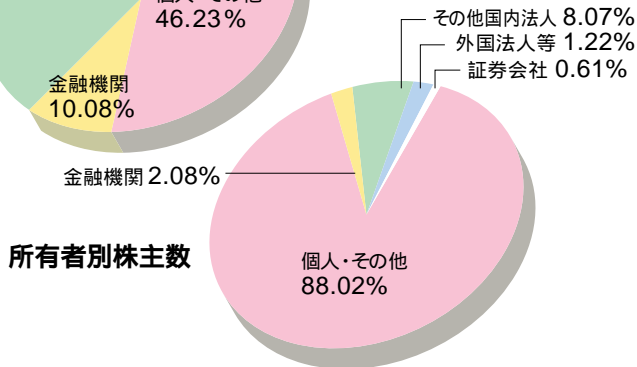
1. 会社が発行する株式の総数 30,900,000 株
2. 発行済株式総数 8,725,000 株
3. 株主数 818 名
4. 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
(株) 夢 現	2,662,000	30.5%
横山 博一	1,022,000	11.7%
横山 順弘	734,150	8.4%
(株) UFJ銀行	352,500	4.0%
加藤 清	213,000	2.4%
社員持株会	167,135	1.9%
齋藤 実	138,300	1.6%
高橋 孝夫	134,400	1.5%
益田 武美	128,000	1.4%
横山 宗久	108,935	1.2%

株式分布状況



所有者別株式数



株主MEMO

- ・ 決算期 毎年3月31日
- ・ 定時株主総会 毎年6月
- ・ 利益配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- ・ 中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- ・ 1単元の株式数 1,000株
- ・ 上場市場 ジャスダック市場
- ・ 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
- ・ 同事務取扱所 (お問い合わせ先) 東京都江東区東砂七丁目10番11号
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話(03)6683-5111(代表)
- ・ 同取次所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の
電話およびインターネットでも24時間承っております。
電話(通話料無料) 0120-24-4479
インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

・公告掲載新聞 日本経済新聞

当社は、今期より決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ <http://www.proto-g.co.jp/IR/library.html> に掲載しております。

中間配当金のお支払について

配当金のお支払につきましては、振込ご指定以外の方には、従来配当金領収証でお支払いいたしておりましたが、株主の皆様への一層のご便宜を図るため、当期の中間配当金より郵便局での「郵便振替支払通知書」に変更させていただきます。なにとぞご了承くださいようお願い申し上げます。

郵便振替支払通知書によりますと、配当金はお近くの郵便局でお受けいただけるほか、お取引銀行にご持参いただければ銀行預金口座へのご入金もできます。

なお、郵便振替支払通知書の金額は、1枚につき30万円以下と法定されておりますので、30万円を越える方には郵便振替支払通知書が複数枚となりますので、あわせてご了承くださいようお願い申し上げます。

最新のIR情報は
当社HPをご覧ください。



<http://www.proto-g.co.jp/>

平成14年10月より「IR情報」をリニューアルしました。
(「英語版」も新たにサイトアップしております)